

# 4

## 「ぼくら地球家族 ～自分たちの力でつくる未来～」

報告者 福岡県みやこ町立黒田小学校 緒方 達也 先生

### 1. 活動のポイント

本校は、児童数174名の小規模校です。学校の敷地内に「橘塚古墳」があり、地域には数個の古墳が点在する貴重な文化遺産の残る地域です。子どもたちは、とても素直で進んで気持ちのよい「あいさつ」ができるようになってきました。

5年生では、社会科や総合的な学習の時間、道徳の時間などの学習をとおして、社会の一員としての自分の在り方や生き方を考える活動を重視しています。

今回の活動の概要は次のとおりです。

- ① 社会科や道徳などの関連的指導
  - ・食糧難の子供たちの現状とユニセフの活動を知り、自分たちのかかわりについて考える。
- ② 総合的な学習の時間「たちはなっ子米を育てよう」
  - ・田植え、草取り、稻刈り、掛け干し などの勤労体験をとおして、稻作や先人の知恵を知る。
  - ・学校の秋祭り「こふんまつり」で収穫したお米の販売体験を行う。
- ③ 総合的な学習の時間「お米の収益の使い方を考えよう」
  - ・お米の収益金の使い方を話し合う。

### 2. 実 践

総合的な学習の時間「お米の収益の使い方を考えよう」

第1回会議の主な意見

- 自分たちの学級の学習や生活に役立つ物を買うことに使いたい。
- お米作りでお世話になった方々にお礼をしたい。
- 恵まれない人々に寄付にしたい。

これらの意見がだされ、一つに集約することはできなかったことから、自分の考えをはっきりさせるための猶予期間を置いて、第2回会議を実施しました。

第2回会議の意見集約

- 東北大震災で、自分たちと同じ小学生が、悲しみや苦しみに負けないでがんばっています。ほんの少しあもしれないけど、ぼくたちが働いて手に入れられたお金なので、ちょっとでも役に立ててほしい。
- 世界の中には、食事も満足に食べることができない子どもたちがたくさんいます。わずかなお金でも、その子どもたちの命を助けることができるのだったら、ユニセフにも寄付して自分たちのお金を役立ててほしい。

この二つの意見には、全員の賛成が得られ、収益金3万円のうち、1万円を東北の学校へ、1万円をユニセフへ、そして残りを自分たちの学級に役立てるという意志決定が行われました。



震災にあった東北の小学校のみなさんへ

震災から1年以上たった今も、まだ行方不明の人がたくさんいる。また、大切な人を亡くした悲しい思いは消えないと思います。でも、希望を失わず明るくがんばっている姿、すごいと思います。1秒でも早い復興を願っています。 大神 しいな



ともに がんばろう

今、ぼくはソフトボールのキャプテンをしています。あの震災後、何不自由なくソフトボールができるることは、とても幸せなことなんだと思うようになりました。

世界の中には、食料危機で、毎日の食事も満足にとれない子どもたちもいます。ぼくたちのお米の収益金が少しでも役にたつたらと願っています。

汐井 篤志

未来に向かって

田植えや稻刈りをして得られたお金を義援金としてユニセフや東北の学校に届けたい。みんなの思いです。

これで終わりではなく、これからも何かできることはないかを考え続けて生活していくことがとても大切だと思います。

世界中の子どもたちが、笑顔で心から笑える日が来ることを願っています。

樋口 昌哉

### 3、まとめ

今年も、5年生がこの「お米作り」とともに、お米の販売による収益金の使途を話し合う会議を引き継いでいきます。いつか、震災から完全に復興し、世界の中から飢えて苦しむ子どもたちがいなくなる・・・そんな日まで続く黒田小学校の伝統になればと願っています。